



DAS CAPITAL

『資本論を読む会』 第6回目の案内！

【第6回】2019年2月22日(金)午後6時から
会場:支局・社青同事務所において

◎次回は第4節「商品の物神的性格」!!

新年1月18日(金)の第5回の「読む会」は、各種闘争の影響もありましたが6名が集まりました。前回の残り「第3節 価値形態または交換価値」の115pから読み合わせ。少し時間に余裕が出ましたが、「第4節 商品の物神的性格とその秘密」は、資本論の中でもホットな良いところなので、次回にとっておきました！

今回のレポートは、前回提出のものを使ったので、支局のホー

ムページでご覧下さい。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/> 「資本論を読む会」コーナーにあります。

レポートから

○前回からの続き…今回の部分は「B 総体的または拡大せる価値形態 / C 一般的価値形態 / D 貨幣形態」(115p-129p)の三つの項目で組み立てられています。要するに前回のAで見た「亜麻布 20 エレ = 上衣 1 着」という図式を、

今度は第二の形態「亜麻布 20 エレ = 上衣 1 着 or = 茶 10 封度 or = コーヒー 40 封度 or = 小麦 1 クォーター or = 金 2 オンス or = 鉄 1 / 2 トン or = その他」という図式に展開します。ここでは上衣以下のそれぞれの商品が「ひとつの特別な等価形態に置き換えられた。

○さらに今度は第三の形態(次図)では、一般的な相対的価値形態であった亜麻布が、今度の

上衣 1 着	=	亜麻布 20 エレ
茶 10 封度	=	
コーヒー 40 封度	=	
……………	=	
金 2 オンス	=	
……………	=	
その他の商品量	=	

の図では一般的等価の性質を押しつけられました。

○そこから第四形態の次の図の金 2 オンスという貨幣形態への転換へと展開されていくのですが、「少しマルクスは意図的じゃないか?」「第三形態なんかわざわざ言わなくても良いんじゃないの?」なんて議論になりました。

○しかし、色々と議論した結果、論理的に展開していくためには「やはり必要なんだ」という話にはなりましたが、やはり難しいです

亜麻布 20 エレ	=	金 2 オンス
上衣 1 着	=	
茶 10 封度	=	
コーヒー 40 封度	=	
……………	=	
鉄 1 / 2 トン	=	
その他の商品量	=	

ね。どうも「山の民と海の民とが年に一回、物々交換をして、これが商品交換の始まりで、貨幣が必要なる」なんて結論のイメージが先行すると、どうも論理的なところが飛んでしまふみたいです。説明を聞いた時は、分かった気がしたのですが、その後、交流会で酒を飲んだら忘れてしまいました。ご免なさい。

○この後は「3 一般的価値形態から貨幣形態への移行」のさわりの部分だけ紹介します。

- ・126p 一般的等価形態は価値一般の形態である。それはどの商品にも与えられる。
- ・終局的にある特殊な商品種に限定される瞬間から、初めて商品世界の統一的相対的価値形態が、客観的固定性と一般的に社会的な通用性とを得たのである。

そこでこの特殊なる商品種は、等価形態がその自然的形態と社会的に合成するに至って、貨幣商品となり、または貨幣として機能する。

- ・127p この特別の地位を、第二形態で亜麻布の特別の等価たる役を演じ、た第三形態でその相対的価値を共通に亜麻布に表現する諸商品のうちで、一定の商品が、歴史的に占有したのである。すなわち金である。 (レポート anak)

☆参加希望の方は、できれば事前に、事務局または発起人にまでご連絡ください。

※資料コピーの関係がありますので…